

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	公益社団法人 日本三曲協会
公演団体名	公益社団法人 日本三曲協会

内容

ワークショップでは、「和楽器の魅力」をテーマとして本公演を行うことを踏まえ、日本の旋律や和楽器に親しみをもってもらうことを第一目的に、主に小学校低学年以上を対象に、箏や尺八の特徴や仕組み、取り扱い、演奏法についてレクチャーを行う。同時に挨拶をはじめとした、日本ならではの風習、礼儀作法についても関連付けて指導を行う。

各校ごとに児童、生徒の人数が異なるため、それぞれの希望には適宜対応することになるが、主指導者1名、補助者3～5名のチームで訪問し、音楽室、体育館、多目的教室等で、主に学年またはクラス単位での授業を行う。(学年・クラスの選定方法については、各校の意向に沿うように配慮しながら、指導者の人数などを総合的に鑑みて調整する。)

1. 箏については、約10～20面(原則として2～3名につき1面、最大30面)を用意し、数人が一組になり交代で体験する。

2. 尺八については、体験用楽器最大50本を用意して、児童、生徒、教員が吹奏体験をする。

(いずれも受講人数については、1授業30人程度を想定しているが、学校により異なる場合がある。また、箏・尺八のどちらの楽器のワークショップとなるかは、指導者の日程調整後に、担当ファシリテーターから各校にそれぞれ連絡を行う。)

本公演の共演曲(講師の伴奏による唱歌など)については適宜編曲し、事前練習を行う。

実施内容はとくに変更なし。感染症対策については、当協会で定めた別紙に基づいて実施(別紙参照「巡回公演対策ガイドライン」「感染防止対策を考慮した箏WSの運営標準スタイル」)。

実施内容については、担当教員や学校側と相談の上、感染症対策に重きを置く形で適宜変更していく。

タイムスケジュール(標準)

講師紹介(5分)→楽器説明(5分)→実技指導(演奏方法の説明と体験・模範演奏)(30～45分)→成果発表・質疑応答など(5分)

上記を基本に、児童・生徒の進捗状況、学校の1時限の授業時間により適宜対応する。

派遣者数※派遣者数の内訳を御入力ください

主指導者 : 1名
補助者 : 3～5名
楽器運搬者(立会い兼務) : 1名

学校における事前指導

各校の音楽科授業において、ワークショップ体験曲となる、日本古謡「さくら」「かごめ」の歌唱について、音楽授業の年次計画に支障のない範囲での事前指導を願えば幸いである。

事前打ち合わせにおいて、各校の特色と、派遣講師の特色が最大限活かせるように協議し、有意義なワークショップとなるよう鋭意努めたい。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	公益社団法人 日本三曲協会
公演団体名	公益社団法人 日本三曲協会

演目

「和楽器の魅力」をテーマに、箏・三絃・尺八の古典曲を中心に演奏するとともに、各楽器のルーツや特徴について、実演を交えながら紹介する。対象は全児童、生徒、保護者など関係者を想定している。

鑑賞曲目：六段の調、八千代獅子、千鳥の曲、松竹梅、根曳の松
須磨の嵐、ひぐらし、春の海、瀬音、鹿之遠音、鶴之巢籠などの伝統的楽曲

共演曲目：さくら、かごめ、ビリーブ、越天楽今様などの親しみやすい楽曲に加え
各校の校歌なども適宜取り入れる。

上記曲目などから、各校の主指導者が専門とする分野の楽曲を適宜選曲することとする。

実演内容はとくに変更なし。感染症対策については、当協会で定めた別紙に基づいて実施(別紙参照:「巡回公演対策ガイドライン」「感染防止対策を考慮した本公演の運営 標準スタイル」)。

実演内容については、担当教員や学校側と相談の上、感染症対策に重きを置く形で適宜変更していく。

派遣者数※派遣者数の内訳を御入力ください

【出演者8名】

主指導者：1名

演奏者：7名

【スタッフ6名】

ファシリテーター(演奏を兼務する場合あり)：1名

楽器運搬者(立会い兼務)：1名

舞台監督(進行)：1名

音響スタッフ：2名

監修者：1名(一つのクルーに原則として一度立ち会う)

タイムスケジュール(標準)

10時 学校入り

10時30分～12時30分 仕込み／リハーサル

13時～14時40分 本公演

14時50分～15時50分 撤去

16時 学校退出

※上記スケジュールは基本スケジュールであり、学校ごとに相談の上詳細は決定する為、
公演時間や演目等は、一部異なる場合がある。(特に休憩の有無や、鑑賞時間について)

実施校への協力依頼人員

児童、生徒の移動及び、整列などは各学校の教員にお願いし、公演時は児童、生徒、保護者の対応に当たって頂きたい。また、楽器運搬時などは、搬入車の駐車場所から会場への動きなどについて、最も効率的な移動方法を適宜ご指示頂きたい。

演目解説

大陸から日本に伝わった楽器が日本で独自の発展を遂げ、江戸時代から現代まで多彩な音楽を生み出してきた三曲。

三曲とは一般に箏、三絃、尺八による演目の総称で、三者の共演を三曲合奏と呼ぶ。それぞれの楽器はルーツが異なるものの、互いに音色を奏でる事で、古典から現代まで音楽世界に広がりを与える。本公演では、それぞれの楽器の歴史的背景や特色を紹介する。そして、独演及び合奏を行い、三曲による近世邦楽の魅力を肌で感じてもらう。

(曲目解説については、学校ごとに異なるため、鑑賞学年などに合わせて適宜作成する。)

解説例：

「六段の調」： 箏の世界では「六段に始まり 六段に終わる」とも言われる大切な曲です。

現在の箏の基本となる「平調子」と呼ばれる調弦法を発案した八橋検校の作曲とされています。

のちにブラームスもこの曲をきいて、遠い異国の地である日本に思いを馳せたそうです。

「鹿の遠音」： 山が赤や黄色に染まる秋、穏やかな風の吹き抜ける中、鹿が鳴き声を交わす様子を表現した曲です。演奏中にはわざと息の音を多く含んだ「ムラ息」や尺八独自のビブラート奏法「ユリ」を使いながら、自然の風景や動物の愛情などを表現しています。

「鶴の巢籠」： 「鶴の巢籠」という名前の曲は、邦楽にはいくつもありますが、どの曲も親子の愛情の深さをテーマとしています。演奏中には鶴の鳴き声を模した「玉音(たまね)」という、特殊な演奏法が登場する尺八の代表曲のひとつです。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

ワークショップで体験する「さくら」「かごめ」、音楽の授業で取り組んでおり子供達が親しんでいる「ビリーブ」などから、事業担当教員及び音楽指導教員と相談の上選曲し、通常授業に負担をかけない範囲で、児童・生徒の合唱や、リコーダー演奏などの練習をお願いし、本公演では派遣講師による和楽器との共演を行う。

児童生徒とのふれあい

テーマである「和楽器の魅力」の通り、子供たちがワークショップにおいて箏・尺八などの和楽器に触れ、本公演では間近で演奏を聴き、和楽器を伴奏に歌ったりすることによって、邦楽や和楽器をより魅力的に、身近なものとして感じられるように努めたい。

巡回公演感染対策ガイドライン（第一版）

公益社団法人日本三曲協会

1. 新型コロナウイルス感染防止に関する基本方針

本事業は文化庁から委託されたものであり、協会としては「陽性者・濃厚接触者にならないこと」と「陽性者・濃厚接触者を作らないこと」の2点を最重要視する必要があると考えています。

保健所による濃厚接触認定においては、マスク着用の有無が第一条件となっています。また、感染状況及び経路を分析すると、マスク着用の有無が重要なポイントとなっているとのことです。

従って、巡回公演中は、止むを得ない場合を除きマスクをご着用頂く事で「感染しない・させない」をご徹底頂きたく存じます。

2. 「体調不良」となった場合の対処方針

① 「体調不良」は以下の症状をさします

- A. 発熱
- B. 咳や痰、鼻水などの風邪の症状
- C. 強い倦怠感や息苦しさ
- D. 味覚・嗅覚の異常

（この他、喉・眼や節々の痛み、結膜の充血、頭痛、下痢、吐き気や嘔吐などは、新型コロナの症状である可能性があります。）

② A～Dの症状が少しでも生じた場合、ワークショップ・公演（以後は「公演等」と呼称します。）の前であれば協会事務局に、公演等中であればファシリテーターに速やかにご報告ください。

3. 陽性反応確認・濃厚接触者認定された場合の対処方針

いずれの場合も保健所からご本人に連絡があります。速やかに協会事務局とファシリテーターにご報告ください。

事後は保健所の指示に従って頂く事となりますが、公演等中の場合、一定期間ホテル等で待機となり、ご帰宅頂けない事が予想されます。

4. 公演等前・中の感染防止について

① 検温等記録のお願い

公演等開始日の2週間前から、公演等終了日まで、各自検温を行い、所定の用紙（事務局に用意）にご記入をお願いします。用紙には体調面で気になることや、行動履歴も併せてご記入頂ければと存じます。なお、この記録は、陽性反応確認及び濃厚接触者認定された場合、保健所の調査に協力するためのもので、協会事務局等にご提出頂く必要はございません。

② マスク着用・飛沫対策のお願い

公演等中は、「常時マスク着用を原則」でお願いします。
なお、本公演演奏時、演奏者は全員協会から配布されたマスクをご使用頂く事となります。

尺八演奏時にはフェイスシールドを装着のうえ、尺八管からの飛沫対策も併せて講じて下さい。（詳細は事業部で取り纏め周知します）

③ 手指消毒のお願い

頻繁に手指の消毒を行ってください。
特に、手すり・トイレのノブなど複数人が触れる箇所を触った際は、必ず手指消毒（消毒液等に過敏な体質の方は、石鹸と水による時間をかけた手洗い）を行ってください。

④ 飲食に関して

公演等開始日の2週間前から、同居者以外の方との会食は出来るだけお控えください（同居者とであっても、飲食店のご利用はお控え頂ければと存じます）。

特にアルコール摂取を伴う会食は、感染リスクを飛躍的に増大させるとの指摘もありますので、公演等終了まで絶対にお控え頂ければと存じます。

公演等中も、飲食店の利用は可能な限り回避し、著しく困難な場合、3密対策が採られた飲食店を選び、滞在時間とマスクを外す時間を最小限に留め、マスクを外した状態での会話はお控えください（ホテルで朝食が提供される場合も同様をお願いします）。

色々とお不便をおかけする事となり誠に申し訳ございませんが、本事業を無事に終えるため、「感染するリスクはすぐそばにあり、誰にでも起こりうる」ということを常に念頭に置き、不要不急の外出は避けるなど感染対策について高い意識をお持ち頂きますよう、ご協力を心よりお願い申し上げます。

以上

感染防止対策を考慮した 箏 WSの運営 標準スタイル 【巡回公演事業】

《新型コロナウイルス感染予防を常に念頭に置くこと》

事前準備

[会場]

- ・受講者数、前半/後半の交代有無等により、会場を決定する
(2組に分ける場合、後半組の待機場所も考慮する。説明は1回で済ませる為)
- ・敷物については、会場の広さ(ディスタンスの確保)を勘案のうえ、決定する
※毛氈使用にこだわらなくてもよい
- ・床に直接座る場合、寒さ対策等のため座布団(防災ズキン、バスタオル)を持参するように依頼する。
- ・換気について考慮する(窓開け可能か、空調使用可能か)
※窓開け出来ない部屋は避ける

[楽器] ** 手指消毒を励行しながら、ケース出し、琴柱セット、配置を行う **

- ・箏の出し入れ/準備/片付けは、原則として楽器店が行う
※スタッフが手伝う場合、手指消毒をしてから行う
- ・箏の調絃は講師が行う
※手指消毒を励行しながら、調絃を行う
※爪装着時に、指を舐めることは厳禁とする。
- ・箏は、原則として、一人1面を継続して使用する
※二人で1面を使用する場合、前半組・後半組に分けて交代する
- ・箏は、使用者交代時、竜角/琴柱周辺を除菌ウェット等で拭く(講師/スタッフが行う)

[譜面台・テキスト] ** 手指消毒を励行しながら、組み立て配置、配布を行う **

- ・譜面台は一人1台を用意する
※使用者交代時は、表面を除菌ウェット等で拭く(講師/スタッフが行う)
- ・使用するテキストは譜面台に置いておく(手渡し等は極力避ける)
※テキストを事前配布、会場に持参してもらう場合はこの限りでない

[箏爪] ** 手指消毒を励行しながら、配布・回収を行う **

- ・箏爪(協会持参)は、開始前に各箏の竜角の上に置き、使用後に回収する
なお、前半組/後半組となる場合、後半組へは直接配布することとする
※ビニール袋は使用せず、プラスチック容器等から配布する
※使用後は、プラスチック容器に回収する(講師/スタッフがケースを持って回る)
⇒ 回収後、アルコール消毒する(除菌スプレーを吹き付け、自然乾燥させる)
※次のクラスで使用する場合、アルコール消毒したものを配布する

運営時の考慮事項

〔講師等の準備事項〕

- ・当日は、講師・スタッフ全員が協会で用意した不織布マスクを着用する
 - ※メイン講師(指導者)は、最前列とのディスタンスが2 m以上確保できない場合は、フェイスシールド・不織布マスクを着用する
 - ※サブ講師は、全員がフェイスシールド・不織布マスクを着用する
- ・メイン講師は、マイクを使用して説明をする（マイクはメイン講師専用とする）
- ・サブ講師は、肩掛け型ホルダーで除菌ジェル/クロスを携帯する（協会で用意する）
- ・サブ講師は、生徒に対応する都度、手指消毒を行うように心掛ける

〔入室誘導からWS開始時〕

- ・入室前に丁寧な手洗いを要請してあるが、入室後、全員の手指消毒を実施する
- ・入室/着席に合わせ、できる限り、手を床(毛氈)に着かないように注意喚起する
- ・開始/終了時の挨拶は、自分のヒザの上に手を置いて行うように案内する
（本来は、ヒザの前に手をついて行うのが正しいやり方であることも説明する）
- ・講師紹介は、講師全員が前に立ち、メイン講師が紹介する（マイクを回さない）
- ・サブ講師は、生徒の手指・足等に直接手を触れないように心掛ける
 - ※生徒への指導により手を触れた場合、一人対応毎に手指消毒を行う
- ・前半組/後半組がある場合、後半組は会場後方等で待機し、最初の説明等は一緒に聞く運営とする。後半組へも入室後速やかに箏爪を配布する。

〔前半組/後半組の交代時〕 交代が無い場合は、終了時参照

- ・サブ講師等は、手分けして、箏爪を回収する（プラスチック容器を持って）
- ・メイン講師は、交代を案内する
- ・サブ講師等は、手分けして、竜角/琴柱周辺・譜面台表面を除菌する
- ・交代時に窓開け・換気をするかは事前に調整しておく（20分-5分-20分の配分か）
- ・交代時に後半組が待機していたイスの座面・背もたれ等を除菌する

〔WS終了時〕

- ・サブ講師等は、手分けして、箏爪を回収する（プラスチック容器を持って）
- ・メイン講師は、終了を案内する（終了の挨拶）

〔次のクラスへの準備〕 （講師・スタッフ全員が協力して行う）

- ・窓開け・換気をする
- ・サブ講師等は、手分けして、竜角/琴柱周辺・譜面台表面を除菌する
- ・交代時に待機するイスの座面・背もたれ等を除菌する
- ・箏爪の除菌は、プラスチック容器上で、除菌スプレーを吹き付け、自然乾燥させる
（アルコール除菌であり、5分もあれば自然乾燥する、多少の濡れが残っても問題ない）

〔終了時片付け等〕 ** 手指消毒を励行しながら、片付けを行う **

- ・箏爪の除菌は、プラスチック容器上で、除菌スプレーを吹き付け、自然乾燥させる
（翌日のためにも確実に行っておく、乾燥後もプラスチック容器に直接入れておく）
- ・箏、譜面台等も表面除菌し、片付ける。

以 上

感染防止対策を考慮した 本公演の運営 標準スタイル 【巡回公演事業】

《新型コロナウイルス感染予防を常に念頭に置くこと》

事前準備

[会場]

- ・可能な限り、広い会場を確保する
- ・敷物については、会場の広さ(ディスタンスの確保)を勘案のうえ、決定する
※毛氈使用にこだわらなくてもよい
- ・床に直接座る場合、寒さ対策等のため座布団(防災ズキン、バスタオル)を持参するように依頼する。
- ・換気について考慮する（窓開け可能か、空調使用可能か）
※窓開け出来ない部屋は避ける

[楽器] ** 手指消毒の励行 **

- ・実演用の箏を繰り返し使用する場合、基本的に消毒しないこととする
※実演用は高価な材質で作られており、直接の消毒は避け、手指消毒で対応する
- ・箏の出し入れ/準備/片付けは、原則として楽器店が行う
※スタッフが手伝う場合、手指消毒をしてから行う
- ・箏の調絃は講師が行う
※手指消毒を励行しながら、調絃を行う
※爪装着時に、指を舐めることは厳禁とする

[譜面台]

- ・立奏譜面台は、手指消毒を励行しながら、共通で使用する

[箏爪・楽譜等個人所有物]

- ・個人所有物は、ケース/ビニール袋等に保管し、飛沫感染を受けない状況で保管する

運営時の考慮事項

〔講師等の準備事項〕

- ・当日は、講師・スタッフ全員が協会で用意した不織布マスクを着用する
- ・尺八奏者は、フェイスシールドを着用し、下記の飛沫飛散防止措置を講じる
- ・不織布マスク、フェイスシールド等は協会で用意する

〔控室、入退場〕

- ・楽器置き場、出演者控室等が密にならないように配置する
- ・手指消毒を励行する
- ・入場、退場時等に密にならないように配慮する（間隔を空けて行動する）

〔舞台配置・飛沫対策〕

- ・ソーシャルディスタンスを念頭に楽器を配置する（前後左右2m確保を基本とする）

〔前面の飛沫対策〕

- ・最前列の席までのディスタンスは、5m以上を基本とする
体育館でステージが使える場合、ディスタンスは確保でき、前面对策は講じない
音楽室等狭い場所で5m以上確保ができない場合は、飛沫飛散防止措置を講じる
- ・箏奏者は、演奏時も原則として、不織布マスクを着用する
- ・尺八奏者は、立奏譜面台（イス座奏）の下部から床まで、飛沫飛散防止措置を講じる
（卓上で使用するアクリル板、ビニールシート等を譜面台の下に置く）
- ・尺八奏者は、足元（管尻の真下周辺）に、飛沫飛散防止措置を講じる
（床に吸水性の良い敷物を敷く、若しくは、演奏後に足元周辺を除菌する）

〔側面の飛沫対策〕

- ・箏奏者と尺八奏者との間のディスタンスは、3m以上を基本とする
ディスタンスが確保できない場合、飛沫飛散防止措置を講じる
（尺八奏者との間にビニールシート幕等の設置）

以上